

提供日 2022/9/28
タイトル 富士川水系の河川水等に係る調査結果について
担当 暮らし・環境部環境局生活環境課
連絡先 大気水質班
054-221-2253



富士川水系の河川水等に係る調査結果（8月実施分）について

山梨県と静岡県が協働し、国土交通省も連携協力して富士川水系の河川水等に係る第5回目の調査を令和4年8月3日（水）に実施しました。その調査結果をお知らせします。

1 結果概要

(1) アクリルアミド

- ・水質：全ての地点で人や水生生物への影響を考慮した各種指標（4. 指標等）を下回っていました。
- ・底質：全ての地点で定量下限値未満でした。

(2) 浮遊物質（SS）

全ての地点で富士川的环境基準値を下回っていました。

2 結果一覧：別添1参照

3 調査地点：別添2参照

4 指標等：別添3参照

5 今後の調査計画

- ・県内のアクリルアミドの調査（水質）を、令和4年10月中に実施します。

別添 1

調査日：令和4年8月3日（水） 天気：晴

河川	地点	実施者	水質		底質
			アクリアミド [※] (ng/L)	SS※ (浮遊物質質量) (mg/L)	アクリアミド [※] (ng/g-dry)
雨畑川	① 雨畑川流末	山梨県	—	7	—
早川	② 中之島橋		—	8	—
	③ 早川橋		—	11	—
	④ 飯富橋		—	14	—
富士川	⑤ 富山橋付近	国	—	15	—
	⑥ 身延橋	山梨県	—	12	—
	⑦ 南部橋付近	国	—	6	—
	⑧ 県境	山梨県	—	4	—
	⑨ 内房橋付近	静岡県	<7.0	3	<0.2
	⑩ 富原橋		81	3	<0.2
	⑪ 富士川楽座付近		23	2	<0.2
	⑫ 富士川橋		22	3	<0.2
稲瀬川	⑬ 内房境川合流後		<7.0	<1	<0.2
地点数			5	13	5

※ 富士川の環境基準値は25mg/L

注 “—” は実施無し、“<” は定量下限値未満

【調査地点】



【河川水のアクリルアミドに関する指標値等】

1 国が定める環境基準等

- ・アクリルアミドは、水環境を経由して、人の健康や生態系に有害な影響を与えるおそれ（水環境リスク）が比較的大きくない、又は不明であるが、**知見の集積が必要である物質「要調査項目」**に選定されている。（環境基準は設定されていない。）
- ・水質汚濁防止法に基づく**排水基準は設定されていない。**

2 設定されている指標値等

- ・今回静岡県内で検出された最大値は、人や水生生物への影響を考慮した各種指標を下回っている。
- (1) WHOの飲料水水質ガイドライン値 500ng/L
- (2) 「水道水の要検討項目^{※1}の目標値(厚生労働省)」 500ng/L
※1 毒性評価が定まらないことや、浄水中の存在量が不明等の理由から水質基準項目、水質管理目標設定項目に分類できない項目
- (3) 「水生生物への影響が表れないと予測される濃度^{※2}(環境省)」 41,000ng/L
※2 「化学物質の環境リスク初期評価」(環境省平成14年)

<参考>

「平成19年度化学物質環境実態調査」(環境省)を元に山梨県作成

項目	検出数/地点	最大値	最低値	定量(検出)下限
水質 (ng/L)	13/48	49	n d	5.9 (2.3)
底質 (ng/g-dry)	40/64	1.9	n d	0.2 (0.079)

注：n dは検出下限値未満

「食品中の含有量」(平成16～28年度農林水産省調査)を元に山梨県作成

食品名	試料数	中央値 (ng/g)	最大値 (ng/g)
ポテトスナック	120	610	4,600
インスタントコーヒー	60	560 [※]	870
炒め野菜	180	23	620

注：日本では、食品に含まれているアクリルアミドモノマーについて、食品衛生法等に基づく基準値等は設けられていない。

※インスタントコーヒー2gを140mLの湯に溶かした場合の濃度は約8,000ng/L

<単位>

- ・1mg (ミリグラム) = 1000分の1グラム
- ・1 μ g (マイクログラム) = 100万分の1グラム
- ・1ng (ナノグラム) = 10億分の1グラム